

様式第1-1 (特許、実用新案、意匠及び商標 (冒認対策商標以外) の申請用)

年 月 日

補助事業者の名称  
及び代表者の氏名 宛て

代表など個人名義の案件は、申請できません。(個人事業主除く)

申請者 住所  
名称 自然人にあつては氏名  
及び代表者の氏名

令和 年度中小企業等海外出願・侵害対策支援事業費補助金  
(中小企業等外国出願支援事業)  
間接補助金交付申請書

中小企業等海外出願・侵害対策支援事業費補助金 (中小企業等外国出願支援事業) 実施要領 (20190314特第3号。以下「実施要領」という。) 第6条第1項の規定に基づき、上記間接補助金の交付について下記のとおり申請します。

なお、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律 (昭和30年法律第179号)、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令 (昭和30年政令第255号)、中小企業等海外出願・侵害対策支援事業費補助金 (中小企業等外国出願支援事業) 交付要綱 (20190314特第1号) 及び実施要領の定めるところに従うことを承知の上申請します。

記

1. 申請者種別 (いずれかに○)

<input type="radio"/>	①法人
<input type="radio"/>	②個人事業者
<input type="radio"/>	③事業協同組合等
<input type="radio"/>	④商工会、商工会議所
<input type="radio"/>	⑤NPO法人

2. 過去における本補助金の支援実績 (いずれかに○)

<input type="radio"/>	①実績なし
<input type="radio"/>	②実績あり
	②の場合、確認事項
<input type="radio"/>	○ 査定状況報告書を提出している
<input type="radio"/>	○ フォローアップ調査を提出している

令和4年度のみ支援企業は、フォローアップ調査対象外のため  
②実績ありの余白に「(令和4年度採択)」と記載のうえ  
フォローアップ調査の欄は「-」を記入

※実施要領第4条第1項第4号及び第23条に定める事項 (補助事業完了後5年間の状況調査 (フォローアップ調査、ヒアリング等)、採択案件の査定状況報告書の提出)

3. 申請者の概要

資本金	従業員数	法人番号	業種
○○○万円	○人	1234567890123	○○業

※個人事業主の場合、法人番号欄の記入は不要

個人事業主は記載不要

13桁の番号。  
※登記簿に記録される  
12桁の会社法人等番号では  
ありません。

主たる業種を記入

内容を確認、必要事項を記入のうえ、チェックを入れる

【確認事項（□にチェック及び記入してください）】

- ☒ 大企業は実質的に経営に参画していない（みなし大企業に該当しない）ことに相違ない。出資者と出資比率を記載してください。（株主名簿の提出で代替することも可）

出資者の名称	出資比率
特許 太郎	45%
株式会社××	20%
株式会社△△	10%
特許 一郎	10%
ほか 5名	15%

※みなし大企業の定義は実施要領第4条第1項第6号（ア）～（エ）参照。

単独で2分の1以上、又は  
複数で3分の2以上の所有がわかるように記入すること。  
小口の株主が複数いる場合はまとめて記入。

- ☒ 確定している（申告済みの）直近過去3年分の各年又は各事業年度の課税所得の年平均額が1.5億円を超えていない。
- ※実施要領第4条第1項第6号（オ）参照。

（過去3年分の課税所得額を記載してください。）

	前年	2年前	3年前
課税所得額	4.7億円	6億円	5.2億円

※上記への該当の有無の確認のため、必要がある場合には、納税証明書等の提出を求めることがあります。

損益計算書の「税引き前当期純利益」ではなく、  
**法人税申告書の「所得金額又は欠損金額」を記入**  
※「所得金額又は欠損金額」によって、  
○千万円、○百万円等、適宜単位を変えて記入してください。  
※創業間もない等、課税所得を算出していない場合は  
「-」を記入してください

4. 申請案件種別（いずれかに○）

（外国出願）

	①特許出願
	②実用新案登録出願
	③意匠登録出願
○	④商標登録出願

（参考：国内出願）

	①特許出願
	②実用新案登録出願
	③意匠登録出願
○	④商標登録出願

5. 外国特許庁への出願の方法（該当するものに○（複数可））

○	①パリ条約等に基づき、外国特許庁への出願を行う方法
	②特許協力条約に基づき、外国特許庁への出願を行う方法（国内出願を基礎として行ったPCT国際出願を同国の国内段階に移行する方法）
	③特許協力条約に基づき、外国特許庁への出願を行う方法（PCT国際出願を同国の国内段階に移行する方法）
	④ハーグ協定に基づき、外国特許庁への出願を行う方法
○	⑤マドリッド協定議定書に基づき、外国特許庁への出願を行う方法

6. 外国特許庁への出願の基礎となる国内出願の内容

日本国出願番号	商願 20〇〇-〇〇〇〇〇〇	出願日	20〇〇年〇月〇日
PCT国際出願番号 ※PCT国際出願の場合のみ		出願日	
ハーグ協定に基づく 国際登録番号		国際登録日	
出願人	〇〇株式会社		
登録番号	商標第〇〇〇〇〇〇〇号	登録日	20〇〇年〇月〇日
権利者	〇〇株式会社		
発明・商標等の名称	ラーメン太郎	登録済みの場合は記入	
	図形商標等の場合は画像をこの欄に貼る。別途添付でも可		
発明・商標等の内容	第30類 ラーメンスープ、ラーメンスープのもと、スープ状の鍋用のつゆ、ラーメンの乾麺、ラーメンの生麺、即席ラーメンの麺、カップ容器入り即席ヌードル、食用粉類 第43類 中華そばを主とする飲食物の提供		

- ※「5.」で②に○を付した場合には、基礎とした国内出願とPCT国際出願の両方をそれぞれ明記してください。
- ※「発明・商標等の名称」及び「発明・商標等の内容」の欄は、実用新案登録出願の場合には「考案の名称」及び「考案の内容」を、意匠登録出願の場合には「意匠に係る物品」及び「意匠の内容」を、商標登録出願の場合には「商標登録を受けようとする商標」及び「商品及び役務の区分並びに指定商品又は指定役務」を指すものとし、それぞれ明記してください。
- ※外国特許庁への出願の基礎となる国内出願が既に登録を受けている場合には、「登録番号」及び「登録日」も合わせて明記し、「出願人」と「権利者」が異なる場合は、それぞれ明記してください。
- ※PCT国際出願の場合は、PCT国際出願番号も明記してください。
- ※日本を指定締約国としたハーグ協定に基づく国際登録を外国特許庁への出願の基礎となる国内出願とする場合には、「ハーグ協定に基づく国際登録番号」、「国際登録日」を明記してください。
- ※「5.」で④に○を付した場合であって、ハーグ協定に基づく国際出願時に日本国を指定締約国として含む場合(外国特許庁への出願の基礎となる先の国内出願がない場合)には、「5.」の記入は不要です。
- ※基礎となる国内出願が複数ある場合には、それぞれ明記してください。

7. 外国特許庁への共同出願の有無

有	無	○
---	---	---

共同出願人がある場合は「有」に○を記入のうえ、  
(有の場合)に内訳等を記入。  
補助率は「権利の持ち分」が「費用負担割合」のいずれか低い方になります。

(有の場合)

共同出願人	権利の持ち分	費用負担割合

8. 外国特許庁への出願に関する出願計画の内容

発明・商標等の名称		<p>「6. 外国特許庁への出願の基礎となる国内出願の内容」と同じ内容を記入。  <b>商標を変更して出願を予定している場合は必ず下欄に記入すること。</b></p>
発明・商標等の内容		
出願人		
発明者等		
出願（予定）国	マドプロ（タイ、シンガポール） 中国、台湾	<p>マドプロ（タイ、シンガポール）採択後すぐ 中国、台湾：11月下旬</p>
出願スケジュール		
審査請求スケジュール （審査請求制度があるもののみ）	<input type="checkbox"/> 出願と同時（同日）（注1）を行う <input type="checkbox"/> 移行国の期限内に行う <input type="checkbox"/> 日本の審査を待ち、審査請求を行う <input type="checkbox"/> その他（ ）	
基礎となる国内出願又は権利の内容に変更を加えて外国出願する場合、変更の内容と必要性を記入	直接出願の中国、台湾については、カタカナを漢字に変更し、『拉麵太郎』として出願予定である。	

チェック不要

**採択後、申請内容と異なる出願は認められません。**  
 直接出願の際に、日本語（漢字やカタカナ等）を現地の言語に変更（翻訳）する場合等、  
**商標を変更して出願を予定している場合は必ずこの欄に記入。**  
 また、先行商標調査は必ず、出願予定の商標で行うこと。  
 ※認められる変更の範囲についてはお問合せください。

- ※「出願人」及び「発明者等」の欄は全ての出願人や全ての発明者等を明記してください。
  - ※「基礎となる国内出願又は権利の内容に変更を加えて外国出願する場合」とは、以下のような場合を想定しています。
    - ・国内出願の内容を補正して外国特許庁へ出願する場合
    - ・商標の外国特許庁への直接出願で日本における国内出願又は権利の字体等を変更して出願する場合
    - ・種別を変更して外国出願する場合（実用新案権を特許権に変更して出願）
  - ※「発明・商標等の名称」、「発明・商標等の内容」及び「発明者等」の欄は、実用新案登録出願の場合には「考案の名称」、「考案の内容」及び「考案者」を、意匠登録出願の場合には「意匠に係る物品」、「意匠の内容」及び「意匠の創作をした者」を指すものとし、商標登録出願の場合には「商標登録を受けようとする商標」、「商品及び役務の区分並びに指定商品又は指定役務」を指し、発明者等の欄の記入は不要です。
  - ※「5.」で③に○を付した場合であって、特許協力条約に基づき、外国特許庁への出願を行う方法（PCT国際出願を同国の国内段階に移行する方法）の場合には、PCT国際出願時に日本国を指定締約国として含まなければこの補助金の対象となりません。PCT国際出願時に日本国を指定締約国として含める場合には、「出願（予定）国」の欄に、必ず「日本」を含めて記入してください。
  - ※「5.」で④に○を付した場合であって、外国特許庁への出願の基礎となる先の国内出願がない場合には、ハーグ協定に基づく国際出願時に日本国を指定締約国として含まなければこの補助金の対象となりません。ハーグ協定に基づく国際出願時に日本国を指定締約国として含める場合には、「出願（予定）国」の欄に、必ず「日本」を含めて記入してください。
- （注1）同日に審査請求を行う場合は、審査請求に要する費用も助成対象となります。

9. 間接補助金交付申請額

295,000 円

(内訳)

(単位：円)

国名／合計	外国特許庁への出願手数料	現地代理人費用	国内代理人費用	翻訳費用	国別計／合計
マドプロ (タイ、シンガポール)	236,000	0	97,000	0	316,000
中国	18,000	50,000	66,000	0	128,000
台湾	36,500	50,000	66,000	0	146,500
外国出願経費合計	290,500	100,000	229,000	0	619,500
助成対象経費	290,500	100,000	200,000	0	590,500
持ち分に応じた対象経費					590,500
間接補助金申請額					295,000

※国別の外国出願経費の内訳、内訳項目ごとの助成対象経費及び間接補助金申請額を記載。

**見積書の見積金額(税込み)を記入すること。**  
**※R5年度より、補助対象外経費も含めてご記入ください。**

**助成対象経費の 1/2 の金額**(千円未満切捨て)を記入  
**ただし、下記上限額を超える場合は、上限額を記入**  
 ・商標 60万円 ・冒認対策商標 30万円

外国出願経費から補助対象外経費を引いた**補助対象経費のみ**を記入すること。

おもな補助対象外経費

- ・消費税
- ・特許印紙代
- ・申請書作成にかかる代理人費用・成功報酬
- ・先行登録調査費用
- ・出願と同時に進行予定のない経費

※そのほか不明な経費についてはお問合せください。

共同出願人がある場合は

**補助率は「権利の持ち分」か「費用負担割合」のいずれか低い方の割合を乗じた金額になります。**

※上記記載例で、権利の持ち分 50%、費用負担割合 100%の場合

助成対象経費	590,500
持ち分に応じた対象経費	295,250 (助成対象経費の 50%)
間接補助金申請額	147,000 (助成対象経費の 1/2 (千円未満切捨て))

10. 外国特許庁への出願の動機・目的

出願国で権利を取得することとした動機や目的を記載してください。  
 原則として出願国ごとに動機・目的を記載してください。  
 (記載欄の拡張可)

(例文)

弊社は中国に輸出実績があり、アジアは今後弊社事業のひとつの柱を担う市場と考えている。ブランド名「〇〇」の商標登録を行うことで、他社商品との差別化、ブランド力の向上を図るとともに、模倣品対策としてすでに実績のある中国だけでなく、タイ、シンガポール、台湾へ出願をすることとした。「〇〇」のブランド育成を行うことにより、売上向上を期待しており、20〇〇年を目途に、既に中国で販売を行っている「〇〇」ブランドの製品 A をタイ、シンガポール、台湾でも販売する予定である。タイ、シンガポール、台湾においても、中国同様に、日本製の市場性が高く、統一ブランド「〇〇」を用いて販売していきたい。

◎ポイント

目安として 300 文字くらいはご記載されることをおすすめします

- ・権利取得の動機
  - ・事業の目的(模倣品対策、ブランド力の向上だけではなく出願予定国において事業を行う目的)
- 上記2つを具体的に記入してください

**※内容が出願国ごとに異なる場合は、国ごとに記載してください※**

11. 出願（予定）国における事業展開計画（出願（予定）国を選んだ理由も含む）

出願国ごとに現在の事業展開状況や今後の事業展開計画を、出願国を選んだ理由と共に、できるだけ具体的に記入。（進出年次や、現時点での実績等も含めて）

（記載欄の拡張可）

※こちらは、選定基準項目（事業展開可能性）の判断材料となります。

（例文）

「〇〇」ブランドの製品 A はアジア圏で事業展開を強化していく予定である。

当商品は 20〇〇年より商社を通じて、中国に販売を行ってきた。20〇〇年には、販売個数〇個（売上高〇〇円）の実績があり、販売当初と比較し〇%の伸びがあり、アジア圏での市場性は高いと考えられる。

販売数の伸び率から、タイ、シンガポール、台湾においても良好な反応が予測され、ブランド名「〇〇」の商標を出願することにより、アジア圏でのブランド確立を目指す。

さらに、アジア圏では、近年日本製の△△の人気の上がってきたため、20〇〇年には商社を通じての販売だけでなく、EC サイトでの販売を計画している。そのほか、販路拡大のため、20〇〇年を目途に、多言語での HP 作成、展示会出展を行う予定である。

20〇〇年の販売・売上目標

中国・・・〇〇個（〇〇円）

タイ・・・〇〇個（〇〇円）

シンガポール・・・〇〇個（〇〇円）

台湾・・・〇〇個（〇〇円）

◎ポイント

目安として 300 文字くらいはご記載されることをおすすめします

・市場ニーズ・市場規模

・事業面の強み（販売・製造・調達・人材・人脈・設備・品質・コスト等）

・海外展開形態（製品輸出・現地法人での生産・現地企業によるライセンス生産等）

・事業展開計画（推進体制、推進スケジュールを含む）

・予想される売上高・利益額

上記5つを具体的に記入してください

※内容が出願国ごとに異なる場合は、国ごとに記載してください※

12. 出願する技術、創作等を活かした製品等の概要

製品の用途・使用方法等を分かりやすく記入。製品パンフレット等がある場合は、別途添付も可能。

（記載欄の拡張可）

13. 出願の新規性、進歩性、創作性等（先行・類似調査の状況を含む。）

先行技術調査の内容を記入。調査結果を別途資料で添付する場合は、その旨記入

先行商標調査には、少なくとも以下項目を記入

○調査条件

・調査データベース：外国調査データベース TM VIEW 等

・調査対象範囲：～20〇〇年〇月〇日 等

・調査国：「タイ」等、必ず出願予定国すべてについて調査すること。

・検索ターム：「ラーメン太郎」「拉麵太郎」「RAMEN TARO」等、ニース国際分類「△△」等

・調査実施者：弁理士 ○○○○（調査経験12年）、知財管理室○○○○（調査経験20件/年）等

○調査結果

・本願商標に紛らわしい先行商標（例えばマークと指定商品等の何れも紛らわしい商標）が確認された場合は、その先行商標を示し、本願商標とは非類似と判断する理由を簡単に記入。

特に確認されない場合は、その旨を記入。

上記先行技術調査は、下記の書類でも代用可

○既に行った、調査会社による調査報告書の写し（調査期間を必ず記載）

14. 過去における出願実績及び権利取得状況（国内及び外国）

・日本 特願2019-012345 出願日：2019年3月3日  
 特許第〇〇〇〇〇〇 登録日：2017年3月3日  
 商標登録第〇〇〇〇〇〇 登録日：2017年2月1日  
 ・米国 特許 〇〇〇〇〇〇〇〇 出願日：2018年7月1日  
 ・欧州 特許 〇〇〇〇〇〇〇〇 出願日：2019年8月1日  
 他〇〇件（国内〇件、海外〇件）

国内及び外国の権利の種類、名称、出願先(国名)、登録(出願)番号を記入。  
 権利取得済みのもののほか、出願段階のものも記入。  
 権利を多数登録している場合は、主要な権利を5件程度記入のうえ、「他〇件」等と総数を記入。  
 (記載欄の拡張可)

15. 外国特許庁への出願を依頼する国内弁理士等（選任代理人）

※選任代理人に依頼しない場合にはその旨及び選任代理人に依頼する場合と同等の書類（間接補助金交付の必要書類）を自らの責任で補助事業者あてに提出できる旨を記入。

(選任代理人による本事業への協力に関する承諾状況は別紙のとおり)

選任弁理士が所属する事務所名、住所、連絡先、選任弁理士名を記入。(別紙「協力承諾書」の添付要)

選任弁理士に依頼しない場合は、その旨に加え、選任弁理士に依頼する場合と同等の書類を自らの責任で提出できる旨と、その理由等を記入。(海外の弁理士に直接依頼した実績があり、必要となるエビデンスの提出に支障がない等)

16. 外国特許庁への出願に関する他の公的機関（独立行政法人日本貿易振興機構含む）の助成制度の利用予定の有無（いずれかに○）

有	<input type="radio"/>	無	<input type="checkbox"/>
---	-----------------------	---	--------------------------

(有の場合のその内容)

補助事業者名 (自治体等)	独立行政法人日本貿易振興機構
対象となる案件 の出願番号	商願 20〇〇-〇〇〇〇〇〇
出願国	米国・欧州
助成制度の内容	中小企業等外国出願支援事業 1 / 2 補助、上限：60万円 申請中

ジェトロ((独)日本貿易振興機構)へ  
 本補助金の申請をしている場合  
 又は、交付決定された場合は必ず記入してください。  
**※ジェトロへ申請中、又は交付決定された案件と  
 同一案件は申請できません。(国が違えば可)**

内容を確認のうえ、全ての項目にチェックを入れる

17. 確認事項（□にチェック）

- 当補助金の事業において、外国出願に関する代理人契約、出願準備、出願手続きなどすべての作業は採択（交付）決定後に行い、事前着手を行わないことを確認した。
- 実施要領第4条第1項第4号及び第23条第2項に定める事項（補助事業完了後5年間の状況調査（フォローアップ調査、ヒアリング等））、実施要領第23条第1項に定める事項（採択案件の査定状況報告書の提出）について確認した。
- 実施要領第4条第1項第5号に定める事項（審査請求が必要なものについては、必ず審査請求を行うこと、中間応答の必要が生じたものについては、応答すること）について確認した。

- ☒実施要領第13条第1項に定める事項（様式第3による計画変更手続きを行わずに実施した、本補助金に申請・採択された内容と異なる出願（出願の変更）は認められない点）について確認した。
- ☒実施要領第22条第2項に定める事項（間接補助事業者の名称、所在地、交付の決定を受けた出願種別、法人番号、採択日、交付決定日、交付決定金額、確定金額の公表）について確認した。  
（※上記以外の事業計画等の申請内容については公表されることはありません。）
- ☒実施要領第23条第1項に定める事項（放棄又は取下げ等を行わないこと）を確認した。
- ☒事業完了後、やむを得ない事情により、採択案件を万が一、放棄又は取下げを行わなければならない場合には、必ず事前に補助事業者へ連絡し、承認を受けることを了承する。
- ☒添付書類の「登記簿謄本等の写し」、「住民票の写し」は申請時点における最新情報であることを確認した。

18. 申請者の担当及び連絡先

担当者（職名及び氏名）			
電話番号		メールアドレス	

代表番号ではなく、担当部署の直通番号を記入。  
担当者の携帯番号の並記も可。